



「ゆめ」の文字は、ゆめ基金事業の支援を受け自主研究を実現できた学生に書いていただきました。
「ゆめ」が実現できる学生の輪がさらにひろがるようにとの思いを込めてデザインされています。

寄付の方法

大阪大学へのご寄付につきましては、さまざまな方法をご用意しております。
ホームページからご寄付のお申込みや払込用紙の請求が可能です。

個人

クレジットカード・ATM・ネットバンキング

クレジットカードはホームページで手続きが可能です。
ATM・ネットバンキングはお知らせする指定口座に振込みをしていただけます。

お送りする払込取扱票にて窓口で振込みをしていただけます。

金融機関窓口払込

コンビニ払込

ご連絡する番号をコンビニ端末で入力いただくか、お送りする払込票にてコンビニで振込みをしていただけます。

クレジットカードはホームページで手続きが可能です。金融機関の場合は預金口座振替依頼書をお送りします。

定期的なご寄付

リユースによるご寄付

ご不要の本等のご寄付によって、阪大生の「未来」を支援する取組です。ホームページからお申し込みください。

さまざまな大阪大学の活動に、インターネット上で応援・寄付の申込みをしていただける仕組みです。ホームページでの手続きとなります。

法人

ホームページから本学所定の寄付申込書をダウンロードし、ご記入のうえ、メールもしくは郵送にて未来基金事務局までお送りください。申込内容を確認後、本学から振込手続きのご依頼を送付させていただきますので、記載の指定口座へのお振込をお願いいたします。入金確認後、寄付金領収書とお礼状を郵送させていただきます。



大阪大学 未来基金事務局

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-8
TEL : 06-6879-8327
E-mail : kikin@office.osaka-u.ac.jp

大阪大学未来基金ホームページ

<https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp>

大阪大学未来基金

検索



発行:2022年8月

大阪大学未来基金

— 活動報告書 2022 —



大阪大学を応援いただいている皆さまへ | 大阪大学未来基金状況のご報告





「社会に貢献する」大学から 「社会を創造する」大学へ ～社会との共創を通して 「生きがいを育む社会」の創造を目指します～

大阪大学未来基金を通じて、多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。

昨年、本学は大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年を迎え、皆さまからの貴重な御志により、箕面キャンパス整備事業及び周年記念事業を無事実施することができました。また、中之島キャンパス再開発事業については、来年4月のリニューアルオープンを目指して着実に進行しております。改めまして、ご支援いただきました皆さまに心より御礼申し上げます。

大阪大学は、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、「社会の中の大学、社会のための大学」の精神で歩みを進めてまいりました。従前とは異なる「コロナ新時代」という時代の大き

な転換点を迎え、カーボンニュートラルやSDGsの実現による持続可能な社会を目指した変革が進む中で、大学での人材育成やイノベーション創出への期待は一層高まっています。

このような課題と期待を前にして、我々は、「今後社会からの負託にどのように応え、どのような大学であるべきか」という問いに必然的に向き合うことになりました。その問いについて熟考した結果、たどり着いた答えは、単に「社会に貢献する」ということに止まらず、一步踏み込んで新たな「社会を創造する」大学、つまり、社会との共創(Co-creation)を通して、地域から世界全体に及ぶさまざまな課題を解決し、「生きがいを育む社会」を創造する大学となることでした。大阪大学で育まれる「知性」、「英知」を結集して、科学技術・学術、医療制度、経済システム、企業等の組織、コミュニティ、個人の生活や価値観等を抜本的に転換する新たな社会の仕組みを創り出すことで、個々人が社会で活躍できる寿命を延伸させ、あらゆる世代がその多様性を活かすことで社会を支え、豊かで幸福な人生をすべての人が享受できる社会、それが大阪大学の目指す理想の社会像です。

その実現には、社会が抱える複雑かつ困難な課題の解決が必要です。大阪大学は産業界のみならず、市民や地方自治体、国際機関など、多様なステークホルダーとの共創により、さまざまな社会課題に果敢に挑戦してまいります。そして、常

に社会との共創を続けることで抽出される社会からの課題・問題点等について、ステークホルダーの皆さまとともに考え、教育研究の現場に戻し、新たな知・人材を創出する好循環(OUエコシステム)を活動の基盤として、社会課題の解決を図ってまいります。

自らが理想として掲げた「生きがいを育む社会」の創造を目指し、大阪大学はこれからも、50年後、100年後そしてさらにその先の未来を見据え、長年の伝統のなかで培ってきた知の財産、人的資源を継承し、新しい時代と社会の要請に応えるべく教育・研究を一層充実させてまいります。大阪大学未来基金は、2009年の設置以来、多くの皆さまからの温かいご支援により、順調にその規模を拡大してまいりました。本学の学生、教員、研究者が未来社会の「ゆめ」の実現に向けた「ゆめ基金」をはじめ、世界に羽ばたくための多様な教育研究事業に活用させていただいております。

卒業生・保護者や地域の皆さまをはじめ、企業・団体等の皆さまには、引き続き大阪大学未来基金に温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

大阪大学総長 西尾章治郎



◆ ◆ ◆ 未来基金の状況

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ご寄付の総額は118億円に。

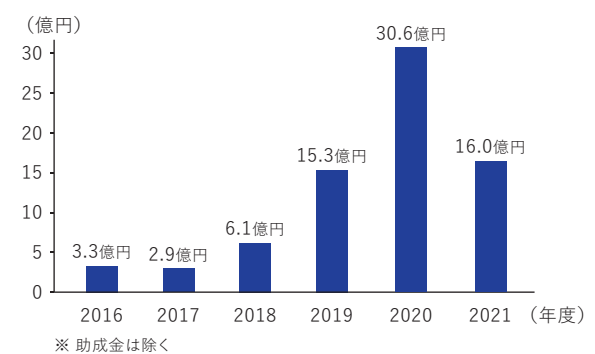
大阪大学未来基金の受入金額は、2022年3月に累計118億円に達しました。温かいご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。皆さまからのご寄付は、大阪大学のさまざまな事業に有効活用させていただいております。

当基金の設置当初(2009年5月)から2022年3月末までの収支状況は、以下のとおりとなっております。基金残高は約60.0億円となり、2021年度も継続した「大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年」の記念事業へのご寄付など、多くのご支援をいただきました。また、各部局や課外活動へのご寄付等、多大なるご支援をいただいております。

当基金は、卒業生をはじめ、地域社会、企業・団体など多くの皆さまのご支援に支えられてまいりました。感謝の気持ちを忘れずに、大阪大学未来基金事業をさらに活発化してまいりたく、今後とも何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

理事・副学長(共創担当) 金田 安史

● 寄付額の推移(年度別)



● 収支状況

内訳		累計額(億円)
収入	寄付受入	115.9
	運用益	2.2
	小計	118.1
支出	基金事業への支出	57.5
	活動費	0.7
	小計	58.1
基金残高(2022年3月31日現在)		60.0
うち記念事業		12.2

※1 助成金は除く ※2 小数点以下第2位を四捨五入 (2009年5月～2022年3月)

◆ 未来基金の概要

大阪大学は、社会の安寧と福祉、世界平和、人類と自然環境の調和に貢献する大学となることを志し、多様な知の協奏と共創によって、学問の真髄を極める高いレベルの教育研究を追求しています。また、新たな学問領域の創成、専門分野を超えた知の統合学修を通じて、地球規模の社会問題を解決し、人間性豊かな社会の創造に大きく貢献する人材を輩出します。

大阪大学未来基金は、これらの活動を支える基盤として、学生の活動や教育研究、国際交流、社会連携等、幅広い支援活動に活用させていただきます。



大阪大学
未来基金



大阪大学未来基金
ゆめ基金

(未来社会に向けて)

特定基金

(特定の目的に向けて)

未来社会の「ゆめ」を実現させるため大阪大学を応援していただく基金で、この基金の運用益をもとに、未来を支える学生支援、教育研究支援、国際交流支援、社会連携支援等の事業に活用させていただきます。

用途を特定したプロジェクトをご支援いただくために募集をしているものです。

- 全学プロジェクト
- 学部・研究科等のプロジェクト
- 冠プロジェクト
- 修学支援・研究者等支援のプロジェクト
- 課外活動等のプロジェクト

目次

・ 総長ご挨拶／未来基金の状況	P2-3	・ 特定基金の活用	P8-11
・ ゆめ基金の活用	P4-5	・ クラウドファンディング	P12-13
・ 大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念式典	P6	・ 人生の集大成としての「遺贈」	P13
・ 大阪大学におけるコロナ禍での学生支援(2021年度)	P7	・ 応援の声	P14
		・ 紺綬褒章	P15



～ ゆめ基金、それは未来の社会の「ゆめ」を応援する仕組みです ～

さまざまな夢が世の中にはあります。夢の実現には、ともすれば地域から世界全体にまで及ぶさまざまな課題の解決が必要かもしれません。大阪大学は「多様性の尊重と豊かな時間により、自由な発想と高い知性を育む」という理念のもと、社会との共創を通して、「生きがいを育む社会」に向けた「夢」に末永く寄り添い続けます。

大阪大学は創立以来、10数万人に及ぶ卒業生と世界最先端の学術研究の成果を社会に還元してまいりました。多くの卒業生が、企業・官公庁・教育研究機関・医療機関などさまざまな分野の第一線で、そして世界中の至るところで活躍しています。また、本学の研究成果は、社会や企業の課題解決につながるイノベティブな製品・サービス、健康長寿社会を実現する医薬品開発などに活かされてきました。

「ゆめ基金」は、大阪大学の伝統を受け継ぎ、未来社会への貢献を継続するため、海外への留学・インターンシップ、学部生の意欲的な自主研究、若手研究者の学会発表、課外活動の表彰、さらに激甚災害で保護者の方が被災され経済的に支援が必要な際の本学の学部生・大学院生への特別奨学金給付などに活用させていただいております。

お一人おひとりのご支援が、長い年月にわたり繋がることで、支えられる活動はさらに大きくなり、これら全てのご支援を通じて、大阪大学の卒業生や研究成果による未来の社会の「ゆめ」への貢献に繋げる、それが「ゆめ基金」です。卒業生をはじめ、広く地域の方々や企業・団体等の皆さまに、「ゆめ基金」へのご支援をお願いいたします。

◆ ジャック・デリダの前期思想における歴史の問題 —デリダのフッサール読解に着目して—

中谷 碩岐 人間科学部4年

哲学研究は理系と比べて費用が掛からないとはいえ、研究のために読む必要のある文献の値段は高騰し、研究手法にすら影響を与えかねない苦しい現状があります。

自主研究奨励事業で支援いただいたことで、デリダ以外にもさまざまな哲学者の本を読み、寄り道しながら研究活動を行うことができたことは、非常に幸運、かつ貴重な経験でした。今後もこの経験を糧に、研究活動に取り組んでいきたいと思ひます。ご支援をいただき、ありがとうございました。



◆ 鼻腔カテーテルを用いた造影剤投与実習用ファントムの作成

柿木 大樹 医学部保健学科4年

本研究では2021年10月の診療放射線技師の業務拡大に基づき、新たに追加された業務の教育実習を可能とするファントム（胴体マネキン）を作製し、実際にファントムに対して上部消化管造影検査を実施しました。本研究を通じて上部消化管造影検査について深く勉強し、実際に臨床現場で使用する器具を取り扱えたことで、医療現場における診療放射線技師の意義を実感することができたと思ひます。



◆ コロナ禍で思いがけず変貌した大学生活は 大学生の将来選択に影響するのか

溝口 千遥 法学部4年

コロナ禍の大学環境ではさまざまな変化がありました。その実態を学生である私たちが研究することで、少しでも今後の大学の在り方に貢献したいと考えました。大阪大学未来基金へのご寄付により、私たちの研究を支えていただきありがとうございました。



◆ 小学校プログラミング教育における データ構造的な視点を学ぶ CSアンプラグド教材の開発

北村 祐稀 基礎工学部3年

今回の一連の活動を通して、さまざまな経験をさせていただいたのは言うまでもありませんが、何より研究の面白さに改めて気づき、自分のアイデアに自信が持てるようになりました。これからも独自の着眼点を大切に、世界中の子どもたちが情報科学を楽しんでくれる日を願って研究を続けていきたいです。

学生課外活動等 支援事業

◆ フラメンコ部 AI Compás (アルコンパス) 馬場 朋奈 文学部2年

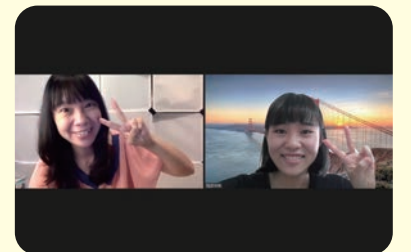
フラメンコにおいて、衣装は各曲に込められた思いや感情を表現するという大きな役割を果たすのですが、部で所有していた衣装は大阪外国語大学時代からのもので、修繕を重ね限界を迎えていました。ご支援のおかげで、さまざまな曲調に対応できるよう色や形を考慮した衣装を揃えることができました。それらの新衣装は5月のいちょう祭でお披露目いたしました。衣装の力も相まって、以前に増して華やかな舞台を作り上げられたと自負しております。

ご寄付により購入した衣装は大切に管理して受け継ぎ、また今後のAI Compásの発展に努めてまいります。



◆ 台湾華語オンライン研修プログラム 服部 智帆 外国語学部2年

私は、台湾華語オンライン研修プログラムに参加しました。台湾華語のみならず、台湾の文化や民族に関しても学ぶことができるとも貴重な機会、約3週間という短い期間ではありましたが、充実した時間を過ごせたとともに、今後の中国語学習の意欲も高めることができました。今回の研修で学んだことを無駄にすることなく、さらなる語学力向上を目指し、これからも学習に励みたいと思ひます。



◆ 理工系学部学生のためのオンライン版基礎国際力向上コース (モナシュ大学) 杉山 友美 工学部4年



授業では、生徒や先生とのディスカッションなどを通じて主に世界の文化や慣習、英語でのコミュニケーションについて学び、授業外のアクティビティでは、英語力も国籍もまったく違う方々と交流することで、授業とはまた違った面白い経験を行うことができました。英語以外にもジェスチャーや表情を用いて自分の考えを伝える方法を模索し、多様なコミュニケーション方法の重要性を学ぶことができたのは、さまざまな人と同時に交流できる本研修ならではの経験だと思います。今後は基礎的な英語学習を続けるとともに、海外の方と交流する場に積極的に参加していこうと考えています。

◆ 交換留学等奨学金 ギース 香梨奈 本学への交換留学生

2021年の10月から2022年の2月まで大阪大学に短期留学をさせていただきましたギース香梨奈です。大阪大学に留学して、アカデミックな環境下で日本語の勉強ができ、他の留学生や阪大生の仲間が見つかり、とても有意義な半年でした。このチャンスを与えていただいて、とても感謝しています。未来基金のお陰で私の将来とも繋がる大切な経験をすることができました。将来、日本で外資系企業のマーケティング部門に就職する夢があるので、大阪大学での勉強がそれにとっても役立つと思ひます。大変お世話になりました、ありがとうございました！



外国人留学生の 受入れ及び本学学生の 海外派遣に係る 経済的支援事業



ご支援いただきありがとうございました

大阪大学創立90周年・ 大阪外国語大学創立100周年 記念式典



大阪大学は 2021年5月1日に創立90周年、 2007年に統合した大阪外国語大学は同年に創立100周年を迎えました

2022年5月1日に、新型コロナウイルス感染症の拡大により1年延期となっていた記念式典・記念講演会を挙行いたしました。

記念式典は、本学卒業生の西靖氏(毎日放送アナウンサー)の司会で、本学交響楽団の演奏により、厳かに始まりました。大阪大学歴代総長・大阪外国語大学歴代学長の紹介、海外大学学長からのビデオメッセージに引き続き、式辞として、西尾章治郎総長から、列席者ならびに大阪大学を支えて下さっている全ての方に感謝の意が述べられ、文部科学大臣 末松信介氏(代読:文部科学省高等教育局長 増子宏氏)、パナソニック ホールディングス株式会社取締役会長 津賀一宏氏、一般社団法人国立大学協会会長 永田恭介氏から祝辞をいただきました。式典の最後には、「10DECADES」と題し、本学関係者・卒業生・在学生の方々に各年代の思い出などのメッセージをお話いただき、大阪大学・大阪外国語大学の過去から未来へと想いをつなげ、つむぎあう時間となりました。

その後、記念講演会が、同じく本学卒業生の牛田菜友氏(NHK 大阪放送局アナウンサー)の司会により行われ、猪木武徳 大阪大学名誉教授から「産業社会における大学の未来」、塩尻和子 筑波大学名誉教授から「『外国語を学ぶ』のその先へ」と題して、大阪大学の未来につながるご講演をいただきました。

なお、大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念事業募金全体で、法人の皆さまから**234件・17.6億円**、個人の皆さまから**2,591件・21.9億円**の合計**2,825件・39.5億円**(2022年3月末現在)のご支援をいただきましたことに、心より感謝いたします。

ご支援をいただいた皆さま、
誠にありがとうございました！



大阪大学におけるコロナ禍での学生支援 (2021年度)

新型コロナウイルス感染症対策基金により、多くの学生に支援を実施することができました。多くのご支援を賜り、誠にありがとうございました。

学生への支援は、国や本学財源だけでは実施が困難なものもあり、皆さまからのご寄付をいただくことにより、更なる支援が可能となりました。



学内でのワクチン接種の様子

◆大阪大学の取り組み

●新型コロナウイルスワクチンの大学拠点接種(職域接種)

2021年6～10月にかけて、本学キャンパスで学ぶ方、勤務する方を広く対象として、ワクチン接種を希望する**学生・教職員延べ2.4万人にワクチン接種**を行いました。本学の大学拠点接種体制の中で吹田市や箕面市の教育関係者、近隣大学の学生等への接種も行うなど、地域自治体からの要請にも可能な限り対応いたしました。また、2022年3月から、ワクチン接種に関する地域自治体の負担を軽減するため、本学キャンパスで学ぶ方、勤務する方を広く対象として、希望者に対して3回目のワクチン接種を開始しました。

●学生支援緊急給付金

「学びの継続」のため、「高等教育の修学支援新制度(給付型奨学金)」利用者及びそれ以外の支給対象要件を満たす学生に**10万円**を支給しました。

●その他、困窮した学生の臨時雇用・授業料免除・減免、新入生の交流会、学生の心身ケア相談窓口の開設など



大阪大学
「ワニ博士」

◆新型コロナウイルス感染症対策基金から支援

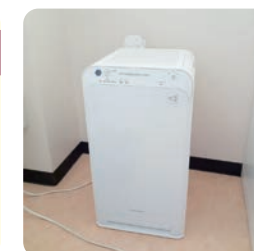
●留学生に対する入国支援

本学は多くの留学生を受け入れております。コロナ禍の状況で、水際対策強化措置による入国後の待機にかかるホテル宿泊費、空港からホテルまでの移動手段、大阪への移動にかかる費用の一部を本学で負担する等の支援を昨年度から引き続き実施しました。

●講義室への空気清浄機設置

新規支援

講義室は不特定多数の学生が利用する場所(感染リスクの高い場所)であることから、本学では講義室の換気状況に関する調査を実施し、その調査結果を踏まえ、換気能力を補助することが望ましい講義室に対して、空気清浄機を2022年3月末までに**243台**設置しました。このことにより、講義室内での感染リスクを低減させ、学生の安全安心を確保することができました。



講義室に設置された空気清浄機



理事・副学長
(学生支援担当)
田中 敏宏

新型コロナウイルス感染症対策基金、特に「学生支援」へご支援をいただき、誠にありがとうございます。先の見通せないコロナ禍においても、将来に希望を持つ多くの学生が本学に入学しております。本学はそのような学生を常に支援し、後押しする姿勢で、さまざまな活動を進めており、講義についても、少人数や対話型の講義における対面式と、主に大人数の講義におけるメディア授業の長所を活かした「ブレンデッド教育」を推進しております。一時期と比べてキャンパスに学生の姿も戻り、新型コロナウイルス感染症対策「全般」へのご寄付も学生への支援として活用させていただき、またコロナ対策を強化する講義室の環境整備も行いました。

感染症はもちろん、地球が直面している複雑な問題に果敢に挑戦し、未来社会を描ける人が、今、世界で求められています。学びの機会や挑戦する姿勢を、学生たちがコロナ禍により失うことのないよう、引き続き学生支援を進めてまいります。

特定基金の活用

～ 使途を特定したプロジェクトをご支援いただくための基金です ～

- 全学プロジェクト
- 修学支援・研究者等支援のプロジェクト **PICK UP! 1**
- 学部・研究科等のプロジェクト **PICK UP! 2**
- 課外活動等のプロジェクト **PICK UP! 3**
- 冠プロジェクト

未来基金ホームページの「特定基金」から、カテゴリー、キーワードを入力して検索していただけます。

PICK UP! 1 修学支援・研究者等支援のプロジェクト

- 大阪大学修学支援事業基金 … 意欲にあふれる優れた学生が、未来を切り拓く「知の探究者」として輝けるように、経済的な理由により修学が困難な学生を支援させていただきます。
- 大阪大学研究等支援事業基金 … 不安定な雇用状態にある研究者等が自立した研究者として行う研究活動や成果発表、異分野の研究者との交流等の支援のために活用させていただきます。

「大阪大学修学支援事業基金」及び「大阪大学研究等支援事業基金」への個人の方からのご寄付については、他の未来基金同様に「所得控除」に加えて、「税額控除」の適応対象となります。確定申告の際、「所得控除」、「税額控除」のいずれかを選択いただけます。

PICK UP! 2 学部・研究科等のプロジェクト

まずは2022年に50周年を迎えた3つの研究科・研究所より、ご支援のお礼と活動報告を申し上げます。

◆ 人間科学部・人間科学研究科 創立50周年記念事業



人間科学研究科長
渥美 公秀



人間科学部・人間科学研究科創立50周年記念事業
Kick-Offミーティングの様子



人間科学部・人間科学研究科創立50周年記念グッズ

人間ヒトすじ50年。さらなる進化へ

2022年、人間科学部・人間科学研究科は創立50周年を迎えました。これまで同窓生の皆さまから、また全国各地で人科を応援下さる方々から、たくさんのご支援を頂戴しております。深くお礼申し上げます。ささやかではございますが、記念キャンペーンとして冊子や記念グッズも準備しております。

いただきましたご支援をもとに、「大阪大学人間科学部50年史」を編集しております。12月3日、4日には大阪市中央公会堂にて、超高齢社会、気候変動、心理的支援など現代社会の諸問題を国内外のゲストを迎えて人間科学の立場から議論する場を設けます。また、貧困、不平等、災害などに焦点を当て、附属未来共創センターならではの社会学共創の場を公開します。さらに、全国に呼びかけて全国人間科学系部局連携ネットワーク設立記念式典も開催します。人科に寄せていただく皆さまの想いを大切にさせていただきまします。どうか引き続き皆さまからのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



◆ 接合科学研究所創立50周年記念事業



接合科学研究所長
田中 学

Join Dreams for the Next

接合科学研究所では、創立50周年を祝し、また、輝かしい次の50年を迎えるために、さまざまな記念事業を行う予定です。溶接・接合に関わる科学と技術と人材を紡ぎ、過去と現在と未来を繋いで、大阪大学のモットー「地域に生き世界に伸びる」のもとで世界に向けての共創事業を推進していくため、この度、「接合科学研究所 創立50周年記念基金」を立ち上げ、本研究所の記念事業を進めるべく、募金活動を行うことにいたしました。21世紀の人類社会のニーズに応え、22世紀に輝くグローバル社会を夢見て、溶接・接合分野の世界研究拠点として豊かな人類の繁栄と発展に資するべく、私たちとともに次の50年に向けた歩みに加わっていただければ幸いです。



実験研究棟竣工時の溶接工学研究所



現在の接合科学研究所

◆ レーザー科学研究所創立50周年記念事業



レーザー科学研究所長
兒玉 了祐

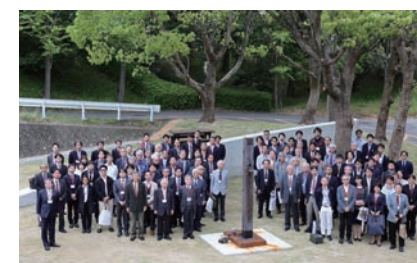
「世界から人々が集まる研究所」を目指して

レーザー科学研究所は、2022年に創立50周年を迎えました。50周年を記念して“世界から人々が集まる研究所”を目指し、「未来を照らすレーザー科学支援事業」を開始いたしました。皆さまのご支援のもとで、レーザーの光を使って輝く未来を創るために、グローバルに活躍できる人材を育み世界を先導できる知と技術を創造し社会に貢献できることに感謝申し上げます。

50年の節目に当たり、過去と現在を結び付ける絆を深めるシンポジウムを開催するとともに現在から未来への懸け橋を築くためのさまざまな企画を準備いたしております。また、皆さまのご支援のもと、50周年を記念し「過去から現在さらに未来への繋がり」を象徴した研究所のアプローチの改修ができましたことを心より御礼申し上げます。レーザー科学研究所は、無限の可能性をもったレーザー科学を発展させることで、皆さまとともに、輝く未来を創ることに貢献していきたいと思ひます。新たな50年へ向けて、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



過去と現在を結び付ける絆を深めるシンポジウム
(同窓会50周年記念シンポジウム)



50周年を記念した新たな研究所アプローチと
記念碑除幕式



50周年記念意見交換会

引き続き、「学部・研究科等のプロジェクト」から、2つの部局の建物改修・新棟建設について、ご支援のお礼と活動報告を申し上げます。

◆ 歯学部・歯学研究科建物改修事業



歯学研究科長 今里 聡



改修工事完了後の歯学部C棟
外観北面



机・椅子が新調され明るくなった
大講義室



学習シーンに応じてスペースが変更
可能なアクティブラーニングルーム

歯学部・歯学研究科では、歯学部C棟・D棟の改修工事实施にあたり、2020年4月から2年間、大阪大学未来基金に特定基金「歯学部・歯学研究科建物改修事業」を設置いたしました。お陰様で2022年3月末をもちまして2年間にわたる改修工事が完了いたしました。皆さまのご厚情に深く御礼申し上げます。

今回の改修においては、基本インフラや床・壁・天井の整備を行う建物改修に加えて、講義・実習室のIT化など、最先端の歯学教育を実践できる環境や、幅広い研究活動を支援できる環境を整備し、教育・研究機能の強化を図ることができました。この新しい環境のもと、教職員一同、より一層、教育・研究に励む所存です。

これからも、日本を代表する歯学教育・研究機関として、世界の歯科医学・歯科医療の発展に貢献すべく邁進してまいります。引き続き、本学部・研究科への温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

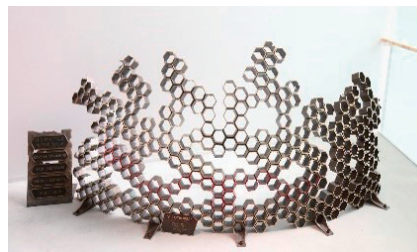
◆ 薬学部・薬学研究科新棟建設



薬学4号館の竣工式



薬学4号館外観



「クロスポリネーションの場に」という
思いが込められた記念モニュメント

薬学研究科/薬学部の新棟4号館が完成しました。

薬学部は2019年度より、全国の国立大学に先駆けて全学生を6年制とする教育システムを開始しております。学生が質の高い実習科目を受講するため、不足しているスペースの確保を目指して、本事業を開始しました。

お陰様で、1階に実習室、2階に大講義室を2つ配置することができ、3階と4階には産学連携を推進する拠点となるようオープンスペースも設け、他学部・他研究科の学生・研究者との接点としても機能する建物が竣工しました。これまでの間、皆さまから多大なご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

なお、この新棟は国立大学法人の研究棟として初めてZEB Readyの認証を取得しました。地球環境の持続可能性にも貢献してまいります。

今後も、高い研究力を有する薬剤師の輩出と、薬学の発展に貢献すべく邁進してまいりたいと考えております。皆さまからのご理解と引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

薬学研究科長 藤尾 慈

PICK UP! 3 課外活動等のプロジェクト

2団体の学生よりご支援のお礼と活動報告を申し上げます。

◆ 体育会陸上競技部支援事業



体育会陸上競技部部員一同



大会前の全体集合の様子



関西インカレの様子(黄ユニフォームが本学)

大阪大学体育会陸上競技部です。日頃より、大阪大学未来基金にてご支援いただきありがとうございます。いただいた支援金は試合の遠征費用や練習器具、大会参加費など当部の活動資金として利用しております。

私たちは2022年5月末に開催されました第99回関西学生陸上競技対校選手権大会にて、男子は大阪大学陸上競技部史上、歴代最高得点で2部総合優勝を果たし、女子も複数種目で入賞を果たすことができました。コロナ禍のためにチーム一丸となって戦う意識が薄れている中、出場する選手だけでなく、応援やサポートの活躍が勝利の大きな要因になりました。これからも七大会での総合優勝や日本学生陸上競技対校選手権大会に向け、部員一丸となって日々の練習に取り組んでまいります。最後になりますが、日頃何となく練習や試合に全力で取り組めるのも皆さまのご支援があつてのことです。今後とも当部へのご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

◆ 体育会漕艇部支援事業



体育会漕艇部部員一同



阪名戦の様子



朝日レガッタの様子

大阪大学体育会漕艇部です。先輩方、保護者、当部関係者の皆さま、平素より応援と大阪大学未来基金での体育会漕艇部支援事業に過分なご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。

皆さまからいただきました支援金は、大会での艇の輸送費や備品代等、さまざまなものにに使わせていただいております。部の発展に大変貢献しております。

当部の今シーズンの戦績は、2021年10月に行われました全日本選手権男子ペアが第6位、2022年5月に行われました朝日レガッタで女子舵手付きクォドルプルが優勝し、54年ぶりに優勝をつかみとるなど、好成績を残しております。「For one」を部のスローガンとして掲げ、一人ひとりが部全体を高めていけるように日々練習を重ねております。今後もインカレでメダル獲得という大きな目標をはじめ、多くの大会で良い成績が残せるように部員一同、精進いたします。

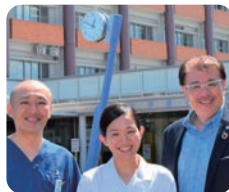
最後になりますが、今後とも大阪大学漕艇部への変わらぬご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

クラウドファンディング

2018年よりインターネットを通じ、一般の支援者の皆さまから寄付金を募るクラウドファンディングを実施しております。皆さまからの力強いご支援をいただき、これまで22件のプロジェクトが成立し、研究教育活動・社会貢献活動に累計8,000人を超える方々から2億1千万円以上のご支援が集まりました(2022年3月末時点)。今後も大阪大学の持つ知を広く社会に還元し、イノベーションを推し進め、世界に羽ばたく人材を輩出するためのさまざまなプロジェクトを実現すべく、皆さまからの力強いご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

PICK UP! 1 視覚障がいのある方に「触ってわかる」歯の模型で「健口」を!

寄付総額:10,105,000円 寄付者:365人 募集終了日:2021年12月24日



歯学部附属病院
村上 旬平 講師(左)

これまで視覚に障がいのある方々に歯の情報を届けるため、「触ってわかる歯の模型」を開発してまいりました。その一環で、全国の視覚特別支援学校や障がい者歯科で模型を使っていただくプロジェクトを立ち上げ、クラウドファンディングを通じ支援をお願いいたしました。ご賛同いただき、ご寄付を賜りました皆さまには、心より感謝申し上げます。

お陰様で現在、模型の準備が順調に進み、2022年秋には、全国の視覚に障がいのある方々の口の健康に貢献する予定です。頂戴いたしましたご寄付につきましては、模型の製作と配布等に役立たせていただきます。これからも、すべての人に口の健康をお届けできるよう邁進してまいりますので、引き続き皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。ご寄付を賜りました全ての皆さまに重ねて御礼申し上げます。



応援の声



歯学部卒 開業医
村内 光一 様

クラウドファンディングという言葉が最近よく目につくようになってきました。以前から、「夢のある人達が頑張っている事業に対して応援したい!」と思っていましたが、まったく知らない方々への寄付となると、一歩が踏み出せずにいました。今回母校で同じ職種の方々がクラウドファンディングで寄付を募って頑張っていることを知り、何のためらいもなく応援したいと思い、初めてクラウドファンディングに寄付をしました。特に私は、普段社会的弱者の方と接することが多く、少しでも役に立ちたいと思っていたので、とても晴れ晴れしたHappyな気持ちでいます。

PICK UP! 2 発達障がいの子どもたちに、コロナ禍のサポートと未来に繋がる研究を

寄付総額:11,083,000円 寄付者:459人 募集終了日:2021年10月20日



連合小児発達学研究所
橘 雅弥 准教授
(前列右から3番目)

「コロナ禍での発達障がい児や家族のストレスを少しでも軽減したい!」そんなスタッフの想いから、コロナ禍や災害などの非常事態下で役立つ発達障がいの子どもと親のためのサポートブックを作成してお手元に届けること、発達障がいや神経難病の原因解明や治療法に繋がるデータシステムを作ることを目指して、このクラウドファンディングを立ち上げました。

クラウドファンディングを通じて、発達障がいについて多くの方に関心を持っていただき応援をいただきました。完成したサポートブックは、既に2,000セットを配布しましたが、教育機関や支援機関からも送付依頼をいただいて、増刷を重ねています。また病理組織データ保存に必要な顕微鏡を購入し、データシステムの構築も進めており、今後研究の発展に役立つものを整備していきます。ご支援を下された皆さま、阪大の関係部局の皆さまや同窓の皆さま、支援の輪を広げるのにお力を貸して下さった全ての皆さまに心より感謝申し上げます。



応援の声



医学部卒 開業医
中西 康詞 様

元々遺伝子の研究を海外で行ってきた私が発達障がいに興味を持ったのは、長女が障がいをもって生まれてきたからです。現在は発達障がいの子どもたちのために尽くそうと考え、大阪の淀川区で療育施設を経営しております。大阪で発達障がい診療の中心的な役割を果たしておられる大阪大学、連合小児発達学研究所が素晴らしい研究を行い、発達障がいの子どもたちがよりよい未来を迎えることができるように微力ながら協力したいと思い、寄付にいたりしました。いつか自閉やADHDといった障がいを一発で治癒させるような凄い治療法を考え、阪大恐るべしと世界に示すことを希望します。

大阪大学クラウドファンディング
https://readyfor.jp/lp/osaka_univ/

ご支援ありがとうございました!

2021年度
達成率 **100%**



PICK UP! 3 急な豪雨に備えを。世界最高性能の気象レーダーを活用したサイトを制作

寄付総額:7,500,000円 寄付者:192人 募集終了日:2021年9月30日



工学研究科
牛尾 知雄 教授

本プロジェクトは、世界最高性能のフェーズドアレイ気象レーダーによって観測されたデータを広く社会に公開し、役立てていただくことを目的として開始されました。ご支援をいただきました多くの支援者の方々に、御礼申し上げます。

このレーダーは、2012年に大阪大学吹田キャンパスに設置され、これまで多くのプロジェクトで中心的な役割を果たしてきました。この度、2022年度にリニューアルされることになり、研究のみならず一般市民の方々に公開し、いただいたご意見を最新の研究にフィードバックすることも目的の一つとなっています。できるだけ多くの方にご覧いただき、少しでも多くのご意見をいただければと思っています。どうかよろしくお願い申し上げます。

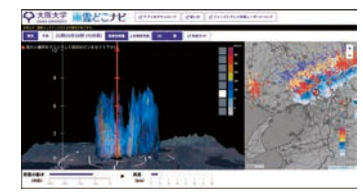
応援の声



気象予報士
三橋 功治 様

予測現場では気象レーダーをよく参考にしてますが、気象予測を発表する時、空振り(「雨」という予測を発表しても降らない)や見逃し(「雨が降らない」と思っているのに雨が降る)が生じます。もし、仮に、降水現象が上空2,000m付近を移動する「底に穴の開いたタライ」によってもたらされるのであれば、このタライの移動をレーダーで捉え、降水を正確に把握することができます。しかし、降水現象は上昇流、下降流、水平方向の風の影響を受け、降水域が秒単位で変化します。

フェーズドアレイ気象レーダーで降水域の立体構造を把握できれば、気象予報に役立つと思い、この度寄付することにしました。



フェーズドアレイ気象レーダーの観測結果がリアルタイムで分かるホームページ
予測も可能 (<https://radar.osaka>)



吹田キャンパスに設置されている
フェーズドアレイ気象レーダー初号機

人生の集大成としての「遺贈」

皆さまの想いを未来に届けます。

遺贈とは、遺言等によりご自身の財産の全部又は一部を特定の人や団体に譲与するものです。これまで築いてこられた財産や先代から引き継ぎ守ってこられた財産も、やがては相続という形で次世代へ承継されていくことになります。遺贈では、ご自身の財産を「母校の発展・前途有為な人材の育成に役立てて欲しい」「自分の生きた証を残したい」「自分の受けてきた恩恵を社会に還元したい」など、ご自身の想いを、遺言執行を通じて確実に反映させることができます。

大阪大学では、遺贈により社会に貢献したいとお考えの卒業生・在校生の保護者の方々・教職員・篤志家の方々等からのご寄付をお受けしております。ご遺志に沿った遺贈がなされるよう、想いに寄り添いご相談を承りますので、大阪大学未来基金事務局へお問い合わせ下さい。

● 相続税について ●

大阪大学に遺贈でご寄付いただいた財産については、相続税はかかりません。また、相続で取得された財産を故人のご遺志・ご遺族のご意志により本学にご寄付いただいた場合にも、相続税申告期限内のご寄付であれば、本学が発行の「寄付金領収書」を所轄税務署にご提出の上、手続きすることで相続税は免除されます。



若手研究者のために

大阪大学は民間企業との共同研究に積極的で、基礎研究に留まらず、企業との産学連携を通じた製品やサービスの社会実装経験が豊富です。モノづくり企業が多い大阪に位置する大学として、高度な科学技術を有した人材を多く社会に輩出しています。

バルブ等を手掛ける機械メーカーの社長をしています。文系出身ながら、現在博士前期課程の学生として3Dプリンタで造形した金属の研究をしています。米国留学などの実体験からもアカデミアで学ぶことの重要性、そして大学や研究者をサポートすることの意義を強く感じています。

2020年度から、工学研究科で「宮田若手研究者研究支援事業」という基金を創設させていただきました。大阪大学は多くの研究リソースを持ち、当社事業にも活用したいと考えています。また、支援を通じて、高い技術を有する研究者に直接アプローチできることは大きなメリットと感じています。今回の支援が大阪大学の工学領域における若手研究者の一助になり、ひいては関西の科学技術の発展に役立てることができれば幸甚です。

株式会社中北製作所 代表取締役社長 宮田 彰久 様

2002年 慶応義塾大学卒業
 同年 (株)三井住友銀行入行
 2007年 (株)中北製作所入社
 2019年 同社 代表取締役社長就任
 現在 同志社大学大学院理工学研究科機械工学専攻博士前期課程に在学中。研究テーマは「3Dプリンタで金属積層したSUS630の電気抵抗による組織評価」



過去より未来へ、もっとイノベティブに！

博士課程・ポスドクの期間を含め、10年余り待兼山の豊中キャンパスでお世話になりましたので、思い出は深いです。その後、企業の研究者として10年以上働きましたが、縁あってアメリカのビジネススクールで学び、以来20年以上もアメリカの企業に勤めることになりました。まったく想定外の人生でした。そういう経歴の中で、欧米やインドはもちろん、東南アジア各国の大学が優秀な人材を輩出していることに気づきました。こう書くとしンガポールなどを思い浮かべられるかもしれませんが、タイやネパールといった国々の大学のレベルもどんどん上がっています。

もっと日本の大学にも輝いてほしい。世界の才能ある人たを惹きつけ、イノベティブな成果を挙げて社会に好循環を生み出してほしい。そういう思いが募り、自分に何ができるかを考え、今回ささやかながら「ゆめ基金」に寄付をすることになりました。何周年記念でも、過去への郷愁でもありません。これからも、卒業生・関係各位の誇りであり続けてほしいという未来への期待からであります。

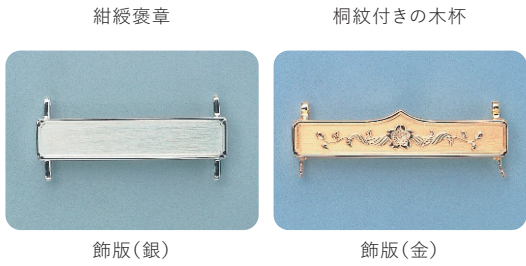
森 時彦 様

1980年 大阪大学大学院基礎工学研究科修了(工学博士)
 1981年 (株)神戸製鋼所入社
 1995年 日本GE(株)(現・GEジャパン(株)) 取締役
 2003年 テラデザイン(株) 代表取締役
 2007年 (株)チェンジ・マネジメント・コンサルティング設立 代表取締役(現在に至る)
 2008年 (株)リバーサイド・パートナーズ 代表パートナー
 2015年 (株)ワイ・インターナショナル 代表取締役
 2017年 (株)CAC 社外取締役
 2018年 (株)日本M&Aセンター 社外取締役(現在に至る)



紺綬褒章は、公益のために私財を寄付された方などを、国として表彰する栄典の一つで、その榮譽のしるしとして授与されます。大阪大学は、内閣府賞勲局より認定を受けた紺綬褒章の公益団体です。大阪大学未来基金では、要件を満たした個人のご寄付者様にご意向を確認の上、文部科学省に申請いたします。

大阪大学未来基金におけるご受章の要件	
ご寄付の金額	500万円以上(個人) ※ご寄付の目的・入金日が同一 ※複数回の受章が可能、1,500万円以上で木杯も授与
分納について	あらかじめお申し出をいただいた場合に限り、分納も可能
必要書類	・履歴書 ・戸籍抄本 2通
申請期限	大阪大学未来基金へのご入金日から起算して3ヶ月以内 ※分納の場合は、最終のご入金日から起算して3ヶ月以内
ご受章の決定	大阪大学から文部科学省への申請後、内閣府での審査(約1年～1年半程度)を経て決定



出典：内閣府ホームページ(<https://www8.cao.go.jp/shokun/shurui-juuyotaisho-hosho.html>)を加工して作成

- 2回以上のご受章・高額(1,500万円以上)のご寄付について
- 個人で2回以上受章された場合、その都度、飾版(銀)が授与されます。この飾版(銀)が5個以上に達したときは、5個ごとに金色の飾版と引き替えて授与されます。
 - ご寄付額が1,500万円以上の場合は、併せて桐紋付きの木杯が授与されます。

受章者の声

中井 梅雄 様
(水泳部出身)



中井様(前列中央)と水泳部員(後列) 水泳部顧問 寺井講師(前列右) 泳友会(水泳部同窓会)会長 玉川様(前列左)

私が大阪大学でお世話になってからすでに60年以上が経過しますが、大学での思い出はなんといっても水泳部での活動です。当時はまだプールがなく、豊中キャンパス内にある叫びが池が私たちの練習場でした。私はよく冗談で大阪大学水泳部の卒業だと言っています。

卒業後も、お世話になった水泳部に何か貢献したいという思いは常に持ち続けていました。そんな折、豊中キャンパスのプールが水漏れにより使えない状況になっており、選手たちが大変困っていることを知りました。顧問の先生を中心に大阪大学未来基金に水泳部支援事業を設置、プール修理のための募金活動を行なっていることをお聞きし、少しでもお役に立てればと支援いたしました。

今回、紺綬褒章をお受けするにあたり、水泳部の現役の学生の皆さんと懇談をする機会をいただきました。特にこの数年はコロナの影響で大会の中止や延期が相次ぐなど活動も制限されている上、大学のプールが使えず練習場所を転々としている状況をお聞きし心が痛んでおります。そのような困難な状況にもかかわらず、現役選手がインカレ出場権を獲得したり、七大会で男子団体優勝を遂げたりしていることを聞いています。

今回の寄付が一刻も早く役立ち、再び水泳部員たちが大学のプールで活動できるようになることを願っています。

●大阪大学会館での銘板掲載

中之島センターは、大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年の記念事業での大規模改修・機能強化のため、2023年4月(予定)までご入館いただけません。その間、中之島センターでのご芳名プレート掲示は一時停止し、豊中キャンパス大阪大学会館のみの掲載となります。中之島センター改修後のご芳名プレート掲示の再開は未来基金ホームページなどを通してご報告いたします。何卒ご理解とご了承のほどお願い申し上げます。



●感謝状の贈呈

2万円以上のご寄付をいただいた皆さまに、総長から感謝状を贈呈します。



●ご芳名の掲載

未来基金ホームページ内の「WEB芳名録」に掲載いたします。



●「大阪大学感謝の集い」にご招待

一定期間・一定額以上のご寄付をいただいた皆さまを招待いたします。

